



カメムシの性質と防除について

男鹿地区営農センター 主査 栗森 太一

カメムシの発生は発生量が前年並み、発生時期は早い予報となっています。特に発生量が多い山間部や耕作放棄地と隣接している圃場では適期防除の徹底をお願いいたします。

● カメムシの性質比較

共通点

- ・ヒエ、スズメノカタビラ、スズメノテッポウ、ホタルイを好む。
- ・登熟初期は頂部を、登熟後期は割れ糲の側部から吸引し、斑点米発生の原因となる。

アカスジカスミカメ

- ・7月下旬に発生。
- ・出穂後に成虫が本田に侵入し、斑点米の原因になる。
- ・出穂が早く糲割れが出やすいあきたこまちは被害を受けやすい。

アカヒゲホソミドリカスミカメ

- ・8月下旬～9月に発生。
- ・出穂後、本田から侵入し、侵入した成虫だけでなく穂や葉鞘へ産卵し孵化した幼虫が斑点米発生の原因に。
- ・水田内のヒエ、ホタルイが多いと産卵量が増加し、幼虫による被害も増えるため被害が重症化しやすい。

● カメムシの防除体系

① 畦畔除草を徹底しカメムシの侵入を抑制する

- ・出穂期の1週間前に茎葉散布剤を使用し畦畔雑草の防除を行います。
(同時に畦畔の草刈を行うと侵入抑制に高い効果を発揮します。)
- ・その後の畦畔の草刈はカメムシを水田内に追い込まないために収穫2週間前以降に行ってください。

② 薬剤散布の徹底

● 1回目薬剤散布

農薬名	散布量/希釈倍数	散布液量	使用時期
スタークル粉剤DL	3kg/10a	—	収穫7日前まで
スタークル液剤10	1,000倍液で使用	150L/10a	

● 2回目薬剤散布

農薬名	散布量/希釈倍数	散布液量	使用時期
キラップ粉剤DL	3kg/10a	—	収穫14日前まで
キラッププロアブル	2,000倍液で使用	150L/10a	

近年、後半に発生するアカヒゲカメムシが多く見られます。

2回目の防除は散布時期を地域で一斉に行うことにより、防除効果を高め、一等米比率の向上に努めましょう！